

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名				姉妹都市提携委員会交付金				担当		総務部秘書課	
事業概要		本市と姉妹都市関係にある都市との友好親善事業を推進・実施する									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)			
R6決算		3,769	千円	0.9	人	5,165	千円	8,934	千円		
R7予算		4,100	千円	0.9	人	5,165	千円	9,265	千円		
目標		姉妹都市の青少年や市民との相互交流等を通じて、市民の国際感覚を養うとともに相互理解を深め、友好親善を図る。									
実績・効果		R6年度実施事業：提携45周年小樽市親善使節団ダニーデン市派遣 24名、提携10周年江西区代表团小樽市歓迎 32名、江西区青少年交流団小樽市歓迎 12名、オンライン交流（青少年）小樽側参加者24名・ダニーデン側参加者15名 市民レベルでの関係構築、本市青少年の国際感覚の醸成に寄与した。									
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等					
	必要性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				国際化が進む中で、本事業を通じて市民の国際感覚や異文化理解を育むことができ、特に青少年交流のニーズは高い。					
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				市と姉妹都市関係団体とが連携するとともに、市教委等の協力を得ながら、継続的な交流を実施している。					
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				姉妹都市交流参加者からは好評を得ており、ホストファミリー体験、オンライン交流などの青少年交流のアンケートでは参加者の満足度は高い。					
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				ホームステイ、通訳は市民のボランティア協力を得て実施。青少年交流団の派遣事業等は、国際交流資金基金を一部財源として活用している。					
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続					
【今後の方向性の説明】											
ダニーデン市、ソウル特別市江西区との交流は、青少年の相互派遣事業などを継続実施し、若い世代の交流を推進するほか、関係団体と協力して様々な交流を通じて各市との良好な関係の構築に努める。 ナホトカ市との交流は、ウクライナ侵攻により中断しており、国際情勢の変化を見ながら今後の対応を考えていく。											

事業名		担当					
事業概要							
事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	千円		人	千円	0	千円	
R7予算	千円		人	千円	0	千円	
目標							
実績・効果							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等			
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い					
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い					
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い					
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い					
評価の結果を踏まえた今後の方向性							
【今後の方向性の説明】							

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 交流推進費			担当 総務部秘書課						
事業概要		外国人住民の生活支援のため「日本語教室」「日本文化体験会」を実施する。 窓口等の外国語対応のため「外国語翻訳機」を配置する。							
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	455	千円	0.3	人	1,722	千円	2,177	千円	
R7予算	320	千円	0.3	人	1,722	千円	2,042	千円	
目標		事業実施により、外国人住民の生活支援と地域住民との円滑なコミュニケーションを図る。							
実績・効果		R6年度 日本語教室受講者 56人 R7年度 日本文化体験会参加者 28人 R6年度 外国語翻訳機（ポケットーク）設置 10台 外国人住民の生活サポート、コミュニティ参加に寄与した。							
点検・評価		評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			外国人住民数は増加しており、生活サポートのための日本語学習や文化理解の場の提供、窓口での多言語対応の必要性は高い。				
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			日本語教室、文化体験会は、市とボランティア団体が連携して継続実施する体制が整っている。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			外国人住民の増加に伴い生活支援のニーズが高まっており、本事業の実施は外国人が地域で安心して暮らすための一助となっている。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			日本語教室・文化体験会は、市とボランティア団体が連携し、経費を抑え市民参加で実施。R7年度から日本語教室は道補助金を活用している。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】 今後も外国人住民の増加が見込まれるため、日本語教室や日本文化体験会の継続、窓口での外国語翻訳機の活用などにより生活支援を図る。									

事業名		担当						
事業概要								
事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算		千円		人		千円	0 千円	
R7予算		千円		人		千円	0 千円	
目標								
実績・効果								
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等				
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
評価の結果を踏まえた今後の方向性								
【今後の方向性の説明】								